

**第3回 資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会
議事録**

I 開催日時等

日時 令和3年10月27日(水) 13:30～15:00

場所 福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)402会議室

II 次第

1 開会

2 議事

(1) 第2回検討委員会(書面開催)における主な意見とその対応について

(2) 入替を行う資料及び資料の展示方法等について

① 入替方針について

② 具体的な入替案について

(3) 委員・ディレクターによる意見交換

3 閉会

III 議事録

1 開会

・事務局挨拶

・配布資料確認

2 議事

【事務局】

それでは、会議の進行を有馬委員長にお願いしたいと思います。

【有馬委員長】

前回2回目の検討委員会が新型コロナウイルスの影響で書面開催ということになり、本日が3回目の検討委員会となっております。早速ですが議事に入らせていただきます。次第の方に議事が3件記載されております。

まず議事「(1) 第2回検討委員会(書面開催)における主な意見とその対応について」ということで、資料1について事務局からご説明をお願いします。

(1) 第2回検討委員会(書面開催)における主な意見とその対応について

【事務局】

お手元の資料1をご覧ください。第2回検討委員会は、対面形式での実施を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、書面開催とさせていただきました。その際にいただいたご意見を資料の左側に記載しております。また、資料右側にいただいたご意見への対応を記

載しております。ご意見は大きく3つに分類しており、本検討委員会での検討対象のうち、引揚資料についてのご意見を(1)、展示方法についてのご意見を(2)、それ以外について(3)として整理しております。(1)から順に、ご報告させていただきます。

まず(1)資料につきましては、①計画的な保存修復の実施、②具体的な展示資料のアイデアの2点についてご意見を頂いております。

①計画的な保存修復の実施といたしましては、資料の保存処理や修復、レプリカ制作の費用等をランニングコストとして考えていく必要があるのではないかというご意見でございました。これにつきましては、ご意見のとおり、資料の保存修復費用、レプリカ制作費用を常設展示のランニングコストとして捉え、毎年一定額の予算を確保していきたいと考えております。

②具体的な展示資料のアイデアといたしましては、引揚船が博多港入港後も伝染病の検査のために停泊していた資料などがあれば、その事例を紹介してはどうかという内容のご意見でございました。これにつきましては、事実関係や該当資料の有無を確認し、コロナ禍において実施するタイムリーな展示のアイデアとして、ディレクターを中心に、盛り込む方向で検討したいと考えております。

次に(2)展示方法につきましては、①から④の4つのご意見をいただいております。

まず、①展示方法の工夫と改善といたしましては、実際に使用された様子がわかる「写真」と「モノ資料」を一緒に展示することは大きな効果を生むが、それに加えてモノ資料の背後にある「ストーリー」を織り込んでいくことも検討する必要があるのではないかというご意見でございました。これにつきましては、ご指摘どおり「ストーリー」と「モノ資料」をセットにした展示の仕方を、ディレクターを中心に盛り込む方向で検討してまいりたいと考えております。

続きまして、②博多港の特徴を捉えた展示といたしましては、博多港に引き揚げた著名人・漫画家などの作品をあわせて紹介することができれば、新しい展示の試みになるのではないかというご意見でございました。これにつきましては、実現に向けては著名な漫画家などの著作権を持つプロダクションへの利用許諾が必要かと思われますので、その方向で検討しております。

続きまして、③継続的な展示入替の方策といたしましては、定期的に資料の見直し・入替えを行う「特集コーナーの設置」など、継続的な展示入替えの方策は極めて重要であり、ディレクターを含めた議論の場が必要というご意見でございました。これにつきましては、本日の議事(3)の中で、委員の皆様にご議論いただきたいと考えております。

続きまして、④映像資料の活用といたしましては、現在の展示で観ることができる「映像資料」を、展示入口付近のふくふくホール前のスペースを活用して上映するなどの工夫ができないかというものでございました。これにつきましては、映像資料の一部を活用した動画を新たに制作し、ふくふくプラザのエントランスホールに設置されているデジタルサイネージで、博多港引揚を紹介するとともに、常設展示コーナーへの誘導を行いたいと考えております。

続きまして、(3)その他でございます。こちらは①から③の3点についてご意見がございました。

①誘導サインでは、ただ展示の存在を主張するだけでなく、入りやすい雰囲気が伝わるようなサインを設置するとより良くなるのではないかというご意見でございました。これにつきましては、ご指摘を受けまして、ただサインを拡充するだけでなく、気軽に展示コーナーに足を運ぶこと

ができるよう、テキスト・配色・キャラクター使用など、デザインについても工夫したいと考えております。

なお、現時点の状況でございますが、参考資料1をご覧ください。写真を5点掲載しております。ふくふくプラザ館内に、事務局で作成した暫定版のサインを掲出しております。これらはあくまで暫定版であり、今後、展示資料の入替えと併せて、デザインを工夫した新しい誘導サインを制作し差替えを行う予定でございますが、事務局ですぐに対処できる範囲ということで対応しております。

資料1にお戻りください。②書籍コーナーについては、コーナー付近に設置するサインに「引揚げの歴史を学ぶ書籍・資料」と紹介してはどうかという具体的なご提案でした。これにつきましても、参考資料1に記載しておりますが、現在ご提案を受け暫定版サインを作成し掲出しているところでございます。

最後に③広報では、今年8月に市政だより中央区版に常設展示の紹介記事を掲載しておりますが、それに加えて他に効果的な広報を行う方法がないかというご意見でございました。これにつきましては、福岡市博物館が実施する企画展示と抱き合わせでの広報などを検討して参りたいと考えております。

以上、議事「(1) 第2回検討委員会における主な意見とその対応について」、事務局からの説明を終わります。

【有馬委員長】

ありがとうございました。ただいま前回の書面会議で出た主な意見についての対応方針案をご報告いただきました。これについて何かご質問はありますか。

【委員】

(1) 資料の②引揚船が博多港入港後も伝染病の検査のために停泊していた資料については、私が知っているのは去年の12月22日にFBSの「めんたいワイド」という番組の中で「戦後75年引揚げの記憶」という特集をしていただいたのですが、その中で博多港に停泊し検査を受けた90歳ぐらいの方が取材を受けていました。もう一つは、「あれから75年」という書籍が出ていて、その中に引揚援護局の活動が詳しく記載されており、船に乗って検査などの活動をした方の記録があります。現在、私が把握している情報について報告させていただきます。

それから書籍コーナーは本日も見てきました。「水子の譜」や「あれから73年」「あれから75年」など以前は置いていなかった本も置いてあるように見受けられました。私が提案したことが採用されて嬉しく思います。福岡市総合図書館も是非とも同じようにご対応いただきたいと思います。

【有馬委員長】

ありがとうございます。他にご意見はありませんでしょうか。

【委員】

博物館の企画展示についてお話させていただきます。この展示は博物館に企画展示室という場所があり、6月19日の福岡大空襲の日にあわせて毎年開催しているものです。それにあわせて、資料展「引揚港・博多」のご案内が出来れば、市域全体に広報され一定の効果があるのではないかと思います。

【有馬委員長】

毎年博物館で開催している「戦争と私たちの暮らし」の展覧会にあわせて引揚げの展示の広報を早速来年度から考えてみたいと思います。この展示は基本的に館蔵資料、つまり市民の皆様から寄贈いただいた資料だけで開催しています。ここから、市民の皆様が暮らしてきた中で、いかに戦争というものが大きな位置を占めているのかということが分かります。一方で、毎年寄贈いただく資料に占める戦争関係資料の割合は減ってきています。戦争の記憶が徐々に薄れていっているということなのではないかと思います。そのあたりも念頭に置きながら、今後の展覧会を開催していきたいと考えています。

(2) 入替を行う資料及び資料の展示方法等について

【有馬委員長】

それでは議事「(2) 入替を行う資料及び資料の展示方法等について」に入らせていただきます。これにつきましては、高倉ディレクターに説明をお願いしたいと思いますが、委員の皆様が面会するのは初めてかと思しますので、事務局から高倉さんのご紹介をお願いします。

【事務局】

事務局から説明させていただきます。第1回の検討委員会において、複数の委員から展示の専門家が必要ではないかというご意見がございました。これを受けまして、事務局として、平和祈念展示資料館の学芸員である高倉大輔氏に展示入替ディレクターへの就任を依頼し、承諾いただいております。高倉ディレクターへの就任を依頼した理由としては、これまで戦時期、特に兵士・シベリア抑留・海外からの引揚者をテーマとした多数の展示を担当されており、当該分野に造詣が深いこと、加えて平和祈念展示資料館は過去に2度、本市と共同で展示会を開催した実績があり、高倉ディレクターは本市保有資料や博多港引揚の特徴について、既にご存じであること、これらの点から、適任と判断し、就任を依頼したものでございます。事務局からは以上です。

【有馬委員長】

引き続き高倉ディレクターご本人からご説明をいただきますが、その前に自己紹介をしていただいて、資料の説明をお願いしたいと思います。宜しくお願いします。

【高倉ディレクター】

高倉と申します。よろしく申し上げます。7年前の2014年、私が学芸員1年目だったときに初めて担当したのが福岡市との交流展でした。その後も度々交流がありまして、2年前の2019年に巡回展を開催した際にも福岡市保有資料を借りて企画展示を行ったこともあり、今回お声をかけ

ていただきました。私としましては博多港は日本最大級の引揚港であり、様々な特色がありますので、是非やらせていただきたいと思ってお引き受けしました。一生懸命頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

資料2は、書面開催となった第2回検討委員会の際にも提示させていただきましたが、改めてご説明したいと思います。本日、会議が始まる前に常設展示を確認してきましたが、やはり想像以上に狭いということと、カラーコピーを置いているように見える資料がありますので、そのあたりも踏まえて、資料2を説明したいと思います。

はじめにのところは、予算に限りがあると思いますので、既存のレイアウトを最大限生かしつつ、引揚港・博多の特色をより前面に出した内容にすると良いのではないかと考え、記載しております。展示スペースが狭いということは、展示する資料1点1点が大変重要になってくると思いますので、十分に検討して選んでいかなければいけないと感じています。

「1 展示方法の工夫と改善」のところでは、我々がよく行う手法として、壁面そのままでは色彩が単調で寂しい印象になりがちなため、ドライマウントのパネルを置いて色を付けた状態で、その上に資料を展示するといったことをします。特に、引揚関係の資料は紙資料が多くなる傾向がありますので、展示面が単調になることを防ぐためこのような装飾をしてもよいのではないかと考えています。ちなみに、現在の展示に使われている4色の色は博多織の五色献上の色を基本に設定したということが分かりましたが、展示スペースが狭いため沢山の色を使うとかえって圧迫感が出てしまう恐れがあり、そのあたりはバランスを見ながら検討したいと思います。「(2)資料の特性を考慮した展示」については、絵画や写真を額装すると記載していますが、展示スペースが狭いため逆に場所を取ってしまうと現場を見て感じました。縁なしの写真パネルの方が合理的だと考えを改めました。紙資料については表紙だけをカラーコピーして置いているような印象を受けますが、表紙だけでなく中身を閲覧できるような状態で展示するよう改善したいと考えます。資料の現物を出すかどうかについては検討が必要ですが、例えば聖福寮のメモなどは紙縫りで綴じられているため、表紙と中身を分離させることが可能につくりになっています。中身が見えるように配置してその解説を付けるといった展示にした方がよいと考えます。モノ資料については適切な演示具を使用して展示したいと考えています。「(3)写真とモノ資料の組合せ」については、一つの案ですが写真に写っている資料の現物資料がありますので、例えば柳行李などは写真と重ねて展示すると、見る人の興味を引けるのではないかと考えています。

続いて、資料右側の「2 博多港の特徴を捉えた展示」のところでは、言うまでもなく二日市保養所や聖福寮といった記載をしていますが、他にも朝鮮半島と日本国内で様々な組織の活動が複雑に絡み合って広がっていつていますので、それが分かりやすく体系的に伝わるように解説パネルを中心に表現していくことも必要と考えています。博多港には1,500人程度の孤児が引き揚げてきたとされていますが、孤児の名簿を見るとその後どのような経過を辿ったのかということがデータで分かる部分がありますので、資料情報を抽出して分かりやすく来館者に伝えたいと考えています。二日市保養所については伝えにくい部分もあるかと思いますが、丁寧な表現で、客観的な視点からどういうことがあったのかを伝える内容にしたいと考えています。(2)博多港に引き揚げた著名人のところでは博多港に引き揚げてきた著名な漫画家がいるので、打診してみないと分かりませんが作品を展示に盛り込んでいくことも検討してはどうかと考えています。

「3 継続的な展示入替の方策」については、このふくふくプラザに常設展示が開設されたのが2011年で今年がちょうど10年目ということですが、今年展示の入替を行ったとしてもそれで終わってしまうと5年10年が経過してまたそのままになってしまうので、定期的に資料が入れ替わる仕組みを作ることが必要と思います。とはいえ毎年入替を行うことは大変ですので、展示ケースの一つを活用して適切なテーマを設定した特集コーナーを設け、その部分だけ定期的に資料の入替ができるようなコーナーを設けてはどうかと考えて記載しています。(2)計画的な保存修復の実施については、常設展示を今後も続けていくにあたり、資料の保存が重要であるため、資料の脱酸処理など優先順位を付けて毎年度実施できるとよいのではないかと思います。資料2については以上です。

【有馬委員長】

それでは続けて資料3もご説明をお願いします。

【高倉ディレクター】

資料3は展示構成案となります。現在の展示は5つの展示ケースを使用しており、展示ケースAに第1章と第2章、展示ケースBに第3章と第4章、展示ケースCからEにそれぞれ第1章、第2章、第3章の続きとして資料が展示されています。これをどのように見直しを行うか検討した結果を資料右側に記載しております。第1章は海外で暮らしていた日本人と終戦前後の混乱まで、第2章は避難民生活と祖国への道のり、第3章が博多港での引揚援護活動、第4章が聖福寮と二日市保養所となっています。特に、聖福寮と二日市保養所については章立てにしてよいと考えます。そうでなければ博多港の特色が出ず、一般的な引揚げの説明だけになってしまいます。第1章と第2章で一般的な内容を、第3章と第4章で朝鮮半島や在日外国人の送出を含む引揚援護の内容を説明する構成となっています。もっと細分化することもできますが、展示スペースからして現在と同じく4章の構成でよいのではないかと考えています。また、資料2のところで特集コーナーの設置と記載しておりますが、それをどこに配置しようかと考えた結果、展示ケースC、D、Eのところになります。順番が逆になりますが、展示ケースEが特集展示コーナーで定期的にテーマを組んで資料を入れ替えるところになります。展示ケースDが作品展示コーナーとしていますが博多港に引き揚げた漫画家の作品を紹介するコーナーとなります。展示ケースCを悩んだのですが、一つの案として象徴展示コーナーのような形で、この資料といえば資料展「引揚港・博多」となるような引揚げの労苦を端的に伝えるエピソードを持った資料があれば、展示してみてもどうかと考えています。私が所属する平和祈念展示資料館にも象徴展示コーナーがあり、初めて日本の地を踏む娘のために、満州で亡くなった赤ちゃん使っていた綺麗な布地のおむつをほどいてワンピースに仕立て直したというエピソードを持つ資料があります。それを「おむつで作ったワンピース」ということで象徴展示にしています。そういったシンボルとなりうる資料があれば是非置きたいと思っています。展示ケースEにある興安丸の模型などは適切な場所に移動して飾りたいと考えています。展示スペースに限りがあるので、1点1点なぜここに置くのかということを十分に吟味して、なるべく無駄なく分かりやすい構成にしていきたいと思っています。参考にもう一枚A3縦の資料に各章3点ほどずつ、展示を予定している資料を一例として挙げて

おります。各章のパネルも単に文章を書くだけではなくグラフ、写真、図などを組み合わせて見応えのあるパネルにしたいと考えています。以上です。

【有馬委員長】

ありがとうございました。まだこれから詰めていく部分はありますが、基本的な方向性というのはご理解いただけたのではないかと思います。

(3) 委員・ディレクターによる意見交換

【有馬委員長】

ご質問もあろうかと思いますが、議事「(3) 委員・ディレクターによる意見交換」に移りまして、資料3の説明に対する質疑から始めて、議論をしていきたいと思っています。展示スペースに限りがあるので、そこにどれだけ盛り込めるかということは、ストーリーや資料を十分に整理して構成していかなければならないので、色々ご苦労があったのではないかと思います。個人的にはかなりすっきりするのではないかと思います。何かご質問はありませんか。

【委員】

展示ケースC、D、Eは図面でいうところの下側が壁面となっていますが、それを通路側からも見えるようにするという事は可能でしょうか。

【高倉ディレクター】

その点については、私も本日現場を確認した際に、非常に殺風景な外観だと感じました。そもそも壁面にするほどの情報が記載されている訳でもありませんので、双方向から見ることもできる形でも良いのではないかと思います。

【委員】

引きがとれない場所での幅広の展示は極めて見にくいと思います。例えば後ろに5メートル下がることができるスペースがあれば全く問題ないのですが、現在の展示スペースでは、人が見ようと思わなくなってしまう。私が最初に資料展「引揚港・博多」を見たときは、展示ケースC、D、Eの存在に気が付きませんでした。それが現在の展示の構造上の大きな問題だと思います。どうしたら解決できるのかしっかり考えないといけないと思いますし、そこは大きなポイントになると考えます。

【有馬委員長】

スペースとして通路が確保されていればよいので、ここに壁面がないと通路ではないということにはならないと思います。展示ケースC、D、Eは島ケースにすることも物理的には可能な訳です。今回一気にできなくとも、次年度以降少しずつ見直しを行った方がよいと思います。入口のところで観てみたいと思わせるような仕掛けを作ることが必要だと思いますし、直接展示スペースを増やす訳ではありませんが、かなり効果があるのではないかと思います。他にご意見はござい

ませんか。

【委員】

私が思い描いている方向に行きつつあるので、非常に嬉しく思っています。その上で更にお願いをするとすれば、1章2章のところに3章4章の前置きとなる内容が来るので、可能であれば1章で展示されている京城女子師範学校の校章が純粹にモノとしてインパクトがあるということは分かりますが、これに合わせて、例えば朝鮮半島における主要学校の分布が分かる地図のようなものがあり、その中に京城帝国大学があるということが明示できていると、その後の章にも繋がっていくのではないかと思います。そうすれば、京城帝国大学医学部の人達、緒方龍さんや日赤の人達が聖福寮に移って、という話ができますし、最終的にはこれがKKRの病院になり、引揚援護の細かいところは福岡市が引き受けていくという現代に繋がるようなストーリー性を持たせることができるのではないかと個人的に思っています。参考にさせていただければと思います。

【高倉ディレクター】

1章で張った伏線が2章3章4章に繋がっていくという伝え方は重要な手法だと思います。難しいですが、考えてみたいと思います。

【有馬委員長】

ありがとうございます。他にご意見はありますか。よろしいでしょうか。それでは最後にこの後どうするかという大事なことをお諮りしたいと思います。私の考えでは、本日のような形の検討委員会は今回が最後とさせていただき、今後は事務局と私と高倉ディレクターの間で内容について検討しながら、ある程度形になった段階で皆さんにご覧いただくということを何回かやって、最終的な展示決定版にしていくというやり方でいかがかなと思っていますがいかがでしょうか。では、そのようにさせていただきます。

【委員】

委員会での検討はしなくてよいと思いますが、予定としていつ頃の完成を想定していますか。

【有馬委員長】

事務局はいかがお考えでしょうか。

【事務局】

年度内を目安にしておりますが、中身を良くすることも大事ですので、そこに縛られることなく、年数をかけて少しずつやっていく部分もあるかと思います。

【有馬委員長】

少しずつ固まった部分については情報をお渡しし、ご意見を伺いながら進めたいと思います。私からの希望として事務局にお願いしたいことは、完成した段階で何らかのお披露目をしたいと

考えております。そのあたりについても事務局や高倉ディレクターと検討させていただきたいと思っております。高倉ディレクターにギャラリートークをしていただくのが一番良いと思っておりますが、スペースに限りがあり、少し人が集まると密になってしまいますので、技術的なことを含め検討したいと思っております。

【委員】

若い世代に引揚げの記憶を伝えていかなければ消えてなくなってしまいそうな気がしています。高齢の方以外も来てくれるようになればいいと思っております。

【有馬委員長】

なんとか皆さんに関心を持って訪れていただけるような展示になればいいと考えております。では、本日の議事は終了とさせていただきます。事務局にお返しします。

3 閉会

【事務局】

本日、無事に第3回の検討委員会を開催することができました。ありがとうございました。検討をお願いしておりました効果的な展示の方法、展示資料だけでなく、幅広くご意見を頂戴いたしました。入替に向けて従来以上の展示になる見通しが立ったのではないかと考えております。これからは委員長、高倉ディレクター、事務局で引き続き検討を続け、適宜報告をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。委員の皆様、どうもありがとうございました。これをもちまして、第3回資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会を閉会させていただきます。